# 大鹿スケッチ

第49号
2014年
11月
〈　発信者　〉
前志満　くみ
〈　提供　〉
旅舎　右馬允

オオシカ谷の木々の葉は、「役割を終えたよ」と、やりきった感たっぷりに一瞬のきらめきを放つ。その色彩は里に暮らす人々を魅了する。ムラサキ、赤、黄色、オレンジ。その色彩の波が山の頂から冷え込みごとにかけ下る。そしてすっかり葉を落とした木々は美しい木肌と種類別のフォルムをさらけ出す。お山の頂は、もう白い。あぁ冬がきた。

## 世界からみたリニア問題
### ～生物多様性条約第十二回締約国会議に参加して～

十月十七日「リニア着工　愛猫たちがとても心地が認可」の報道が伝えられた。よさそうでうらやましい。前日、初冠雪した赤石岳の　のびさんを含む伊那谷清浄な風景とは対照的に、に関わりのある有志五人なんとも禍々しいニュースが「伊那谷チーム」として加できる「サイドイベンだった。

着工認可を受け、どのようなきっかけは、リニアの環境への影響を危ぶむ環境れ考えていたところに韓　団体「国連生物多様性の十国・平昌（ピョンチャン）　年市民ネットワーク」（本で開かれた生物多様性条約部・名古屋）から打診を受第十二回締約国会議に村内けたことだった。

から参加していた谷口昇さんが帰国したという知らせ日～十三日の八日間の滞が届いた。何か光明はない在期間中ＣＯＰ十二に参ものかとのびさん（谷口さ加し、世界中から集まる参んの愛称）を訪ねた。のび加者に伊那谷の魅力を発さんはサイケな部屋着でご信するとともに、短い滞在きげんで出迎えてくれ、まの中で結果を出す，ことをずは温かい夕食を御一緒さ目標にメンバーそれぞれせていただいた。まきストが奔走した。

ーブの前で暖をとっている　まず、ＣＯＰ十二で何が繰り広げられているのか知ることから始まった。ＣＯＰ十二は、大きく分けて世界各国のえらい人がメインに話し合う「本会議」と、ＮＧＯ、市民、先住民、若者が参ルの「先住民」だったという。彼らは「山」そのものを御神体とする精神文化がある。彼らは開発などによって失った「山」を何世代も取り戻そうとしている。

一一月二四日「こまがねよが性たんぱく質は一切口にし　と思っていたが、そういうわけにはいかなかったようだ。リニア問題について発言しようとしてもテーマにしているものに合わないとして、さえぎられることも多かったという。

会議場では話せないので、会議室の外の廊下で一人一人に声をかけて冊子を渡しながらリニアの事について伝えるという火種運動が始まった。そんなかいあってか滞在の最終日に「日韓ＮＧＯサイドイベント」にこぎつけた。そこで日本の緊急問題として原発事故後の汚染問題、リニア計画、祝島の原発建設近況、沖縄の基地問題について報告することができ、日韓の共同声明文には日本の開発問題として放射能問題、リニア計画などが盛り込まれた。これによって環境問題に関する国際会議で議題に上がる確率が高くなるという。リニア問題を世界レベルで考えていく機運が生まれた。

のびさんはＣＯＰ十二で見た「ふるさとの景色」という精神的なつながりは海を越えた山の民と交流を持たせ、それに気づかせ、確信を持たせてくれたようだ。大鹿村での生活の実感を通してやわらかな故郷への思いを伝えていけばいいのだと。

のびさんはベジタリアンで動物性たんぱく質は一切口にしない。その日いただいた夕食まつり」に参加した。主宰は北「資本主義」の限界だという。世界に　散在する開発問題の根っこはすべて「大企業（資本）ＶＳその他」の構図が成り立ち、国でさえ　という火種運動も大企業を止められない。リニア計画は世界各国でみられる典型的な開発問題ということになる。

サイドイベントにおいて、迷惑がられながらもリニア計画の問題を発言した際、一番いい反応を見せてくれたのがブータンやネパールの「先住民」だったという。彼らは「山」そのものを御神体とする精神文化がある。彼らは開発などによって失った「山」を何世代も取り戻そうとしている。

資本主義もいい加減「鉄と語ってくれた。「七十代になっている人からまったく初心者の方まで約二十名余りが参加。前半に自己紹介をする中で七十代の女性が二人、切実な思いも日は、定期的にクラスを受けてくださるありがたい存在。この豊かな食卓が十分楽しめる。

のびさんはベジタリアンになって久しいというが肉を食べるのをやめれば他に食べるものはいっぱいあるにいっぱいあるということに気づくと話す。

「季節節ごとの風景と共に大鹿人の生活をご紹介します。淡々とした日々の中に熱く響く「鼓動」をお届けします。

## 大鹿HeatBeat
### ～大鹿の人々～　第47回
### 紙谷　正　さん　（88）

ある晴れた日、田んぼで藁桐をする紙谷さん。畑にも田んぼにも感謝をこめて温かい藁をひいていきます。暖かな日が続いているが山裾の冬は駆け足でやってきます。

## 釜沢地区の自治会長も務める
## 谷口　昇さん